

talk! talk! talk! 女優・黒川芽以さん



女優 黒川芽以さん

小さい頃からテレビや雑誌などで活躍、現在NHK連続ドラマなどで注目を集めている女優、黒川芽以さん。「今日はたぶん話が止まらないと思う」と言いながら、カメラバックから大事そうに愛用機を取り出してスタートしたインタビュー。デビュー以来撮られる側として慣れ親しんで来た写真に興味を持ち、約1年前に2台のカメラを手に入れた。今まさに撮ることに夢中だという黒川さん。今回は最初の予告通り、大好きな写真についてたっぷりとお話いただいた。

プロフィール

くろかわ・めい。1987年、東京都生まれ。1997年、NHK「鏡は眠らない」でデビュー。以後、テレビ、映画など多くの作品に出演し、役から女優へと成長をとげた。現在注目の若手演技派女優である。これまでの出演作にテレビドラマ「天使みたい」（NHK）「ケータイ刑事銭形涙」（BS-i）、映画「問題のない私たち」（主演/森岡利行監督）「劇場版怪談新耳袋〜幽霊マンション」（主演/吉田秋生監督）など。また2005年には「泪の海」でCDデビューを果たし、「劇場版怪談新耳袋」では主題歌「シアワセがふえるより哀しみをへらしたい」を歌い、作詞にもチャレンジしている。現在NHK連続テレビ小説「風のハルカ」で主人公の妹アスカ役を好演中。2006年2月4日から、テレビシリーズで話題を集めたケータイ刑事の映画版「ケータイ刑事 THE MOVIE パベルの塔の秘密〜銭形姉妹への挑戦状」（佐々木浩久監督）が公開予定。

フィルムカメラとデジタルカメラ それぞれの良さがあるから両方好き！

2005年の1月にこのカメラを買ったんです！（宮崎）あおいちゃんがこれと同じシルバーボディを持っているんですよ。だから私はブラックボディにしてみようかって（笑）。お母さんも「黒がいい、黒がいい」って言っていたのでこっちにしたんです。FM3Aですね。それから隣にあるカメラはD70、フィルムカメラとデジタルカメラと2台お持ちなんですね。

はい。最初にD70を買って、その次にFM3Aを買いました。もうずっと前からカメラが欲しい欲しいと思っていたんですが、買うって決めるまでなかなか踏み出せなくて。でも、今年になってなぜだか急に「よし、買おう」って思い立って買っちゃいました。

最初にD70を買おうと思ったのはなぜですか？

私には弟がいるんですが、彼を撮りたいと思っていたんですね。まだ小さいのでじっとできないし、動きが早いからピントが合うように、瞬間を撮りたいなと思ってオートフォーカスのカメラっていうのがまずあったんです。それから、最初はカメラの知識は何も分からないから、自分で絞りやシャッタースピードを合わせて撮るのは難しいんじゃないかと思ったんです。きっとたくさん失敗するだろうから、でもデジタルカメラならたくさん失敗しても現像代もかからないし消せるから安心だなという思惑があった（笑）。

今思うと最初からFM3Aを買ってもよかったのかなとも思うんですけど、でもデジタルカメラのいいところは、撮影の後で絞りはどれくらい、シャッタースピードはどれくらいって画像情報を見られるところなんですよ。オートで撮っても後にチェックしていれば、こういう時にはこれくらいで撮ればいいんだっていうのが自然とわかるようになるんじゃないかなって思ったんです。

なるほど、そう考えるとデジタルカメラは練習にもぴったりですね。では、フィルムカメラを買ったのはなぜですか？

D70を買って持ち歩くようになってから、お仕事させていただいたフォトグラファーさんなど周りの方に「フィルムの世界はまた違うんだよ」ってよく言われるようになって。ちょっと欲張りだけど、フィルムの世界にも興味がわいてきて、きっとそれぞれいいところがあるだろうからそれを体験してみたいなって思ったんです。

それぞれのカメラを使ってみて、いかがでしたか？

それぞれまったく違いますね！弟とか、動きのあるものを撮るときは断然D70だし、1人でじっくり撮りに行くならFM3Aがいいなって思うし。FM3Aはファインダーを覗いた世界が他とは違うように感じるんです。すごく素敵に見えるんですよ。あと最近思ったのが、デジタルカメラは途中でISO感度を変えられるのがすごく便利です。撮っていて暗くなってきちゃったときなんて本当に便利！

フィルムカメラとデジタルカメラ、どちらが好きですか？

うーん、本当にそれぞれの良さがあるから、どっちが好きというのは決められないです。私にとっては「スカートとズボンどっちが好き？」っていう質問と同じくらい難しく答えてられません。撮影するときの状況に合わせて、ケースバイケースで使い分けられたらいいですね。

たくさん撮って身体で覚える 経験を積むことが上達への近道

そもそも、カメラに興味をもつようになったのはいつ頃からですか？

写真に興味を持ち始めたのはかなり前なんです。きっかけはやっぱり仕事ですね。10歳くらいからこの仕事で撮られる側としてやってきて、ずっと撮られるのは楽しいなって思ってきました。そのうちにたくさんさんの撮影を通して、だんだんと自分で撮ったらもっと楽しいかもしれない、世界が広がるんじゃないかなって思うようになったんです。

自分で撮りたいって強く思ったのは、写真集を撮ったときに、そのときのフォトグラファーさんが光を効果的に使うのがすごく上手だったんです。綺麗で幻想的な写真になりました。とても素敵に撮ってもらえたことに感動して、写真ってこんなふうに人に感動を与えられるものなんだって感じました。それがたぶん高校生に入ったくらいだと思うんですが、それからずっとカメラが欲しい、欲しいって思っていました。

では、ようやく手に入れたという感じですね。

はい。いざ買うと決めたら早かったですよ。こうと決めたらすぐにやらないと気が済まないタイプなので（笑）。

撮り方の勉強はされたのですか？

基本的に本を読んだり勉強したりするのは好きなんです。だから最初はカメラ雑誌をいっぱい読みました。仕事にも持って行って休憩時間に読んだり。でも結局は身体で覚えるのが一番の勉強になるなって思って、最近では読んでいません。とにかく枚数を撮って経験を積むことが大事だと思うんです。今は同じ場所でも露出や絞りなどを変えて撮ってみてどうなるかを試してみたり、D70ではホワイトバランスを変えてみたらどうなるかとか、そういうことをしています。

では、カメラの腕もだいぶ上がったのではないですか？

まだまだダメですよ。やっぱり経験が物を言うものだと思いますので、今はまだ全然、経験が足りていないんです。最近になってようやく、こういう風に撮りたかったら露出をこう変えればいいのかなんていうのがちょっと分かったくらい。やっぱり難しいですよ。FM3Aだと露出をうまくそのままだにして撮っちゃって、真っ白になっちゃったときもありましたから。でもそういうことで気づいて学んで、そうやって納得できるからいいんですよ。たとえばプロの方ならどう撮ればいいのかあるのかもしれないですけど、私は、写真の世界ってこれが正しいとか正しくないとかそういうのではないと思うんです。その人の感性の世界とか、自己満足の世界なんですよ。下手でもなんでも撮った人がいいと思えばそれでいいし、本当に自分の好みだから、正しい撮り方っていうものに答えはないと思っているんです。だから、変に知識を入れ過ぎるのもよくないかなって思うんですよ。



日常に紛れている小さなものを 写真に撮って主役にしてあげたい

今日お持ちいただいた写真の中にたくさん写っていますが、弟さんですか？

そうです、弟はよく撮りますね。写真を撮りたくなると「一緒に散歩に行こうよ」って言って連れ出して撮ったりするんです。小さな子供って表情が豊かでコロコロ変わるから撮っていても面白いんですよ。ポーズをとってもらったりもしますね。最初はカメラを向けられて緊張しているんだけど、ずっと構えていると慣れてきていい表情になるんです。弟の運動会にも行って、私が写真係をしました。カメラを構える他のお父さんに交じって、というか負けないくらい前に出て撮ってました。「メダル取ったんだ、こっちに見せてー！」って。たくさん撮っちゃいました。もう、可愛くてしょうがないんです（笑）。

“姉”バカ状態ですね（笑）。他にはどんなものを撮っているんですか？

壮大な景色とか、すごい景観のところに行って撮るのもいいけど、私は日常にあるものを撮るのが好きなんです。写真って小さなものを主役にしてあげることができるんです。道ばたに咲いている小さな花でもファインダーで覗いてみるとすごくカッコ良く見えたり可愛く見えたり。普段あまり目にとまらないようなものを見つけてそれを主役に撮る、そういう写真が好きなんです。

なるほど。では歩きながら被写体を見つけることが多いのですか？

そうですね。撮影に行くとき一日中歩いていますよ。以前、千駄木、根津辺りへ撮影に行ったときなんて、お昼も食わずに撮っちゃいました（笑）。夢中で撮っていたらお昼の時間を過ぎちゃって……。締めくくりは谷中にある有名な階段のところまで夕焼けを撮ろうと決めていたので、「ここで何かを食べたら夕焼けが終わっちゃう！」って思って最後まで食わずに撮りました。

本当に夢中になっていたんですね。この猫の写真、とてもかわいいですね。

これは浅草で撮ったんです。猫がたくさんいる所があって、でもどの猫も全然逃げないんですよ。この写真もすごく近くに寄って撮ったんですよ。ポカポカしていて気持ちよさそうですね。

こちらの杭の写真は工事か何かの印でしょうか？まさに普段は主役にならないような被写体ですね。

これはですね、杭に書いてある「513」っていう数字が実は私の誕生日なんです。5月13日です。最初歩いていて400番台の杭を見つけたんですね。それがずっと先に続いていて、これはもしかして歩いて行ったら513まであるかもしれないって思って歩いて行っただけです。「511、512.....あったーっ！」みたいな感じで撮りました。

すごい好奇心ですね！結構歩いたでしょう？

歩きましたね。でもとっても楽しかったです（笑）。



「短足なのがまたかわいいんです。「んー？なんニャン？」って感じ」



違う目的で立っている杭が、写真に撮ると自分の杭のような感覚になるから面白い

撮るときはあまり考えない フレーミングは“直感”が大事

写真を撮っていて面白いと思うのはどんなところですか？

ファインダーを覗いているときが一番面白いです。ピントが合った瞬間に「よし、これだ！」ってなるのがいいんです。あとフレーミングはいつもすごく考えます。この花は真ん中にするのがいいのか、左に寄せた方がいいのか、アップにするかって悩むのが面白い。最終的にフレーミングを決定する決め手は直感ですね！ 出来上がりをどうしたいとかイメージして撮ることまではまだ出来ないで、あまり考えず、ファインダーを覗いたときに素直にいいなって思ったものを撮っています。

撮ったあとはどうやって整理されているんですか？

フィルムは写真屋さんに出しますが、D70のデータは家のプリンタでプリントしてアルバムに入れてあります。家でプリントするときはシルキー（絹目調）の紙が好きなんです。光沢よりは光っていないけど、ちょっとツヤがあって味がある感じがする。

あと、アルバムに並べるときにどう写真を配置しようって考えるのも好きなんです。どっちが上に来た方が効果的とか、隣になが来るときれに見えるかとか。写真の並べ方で全く印象が変わってくるんですよ。これは空が上になって、下には蝶がとまっている写真。空と地上、そういうイメージで並べました。

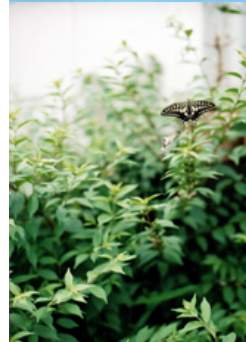
これまで撮った中で特にお気に入りの写真はありますか？

うーん、お気に入りというか、空の写真は好きでよく撮ってましたね。空は1秒も同じではないから、それが面白くなって思うんです。花とかそういうものは止まっているけど、空は雲が流れているからその瞬間しか撮れないものなんですよ。いつも上にあるけど今しか撮れないものだから。あとはお花を撮るのも好きです。だから今、マクロレンズが欲しいんですよ。細部までぐっと寄ってお花を撮りたいですね。

それこそピントが合うと気持ちが良いでしょうね。

そうですね。前にお花を撮っているときに虫がいて、私虫が本当に大嫌いなんですけど、写真にしたら大丈夫だったんです。だから虫も寄ってみたいですね。ニコンのカメラはパキッとシャープに写真が撮れる感じがするので、特に寄った写真は素敵だと思うんです。

その他に撮ってみたいもの、撮りに行きたい場所などはありますか？



アルバムの一番最初のページにあった2枚の写真。掲載順だけでなく横並びにしたり斜めにしたり、レイアウトも写真によって工夫している

まだ海を撮ったことがないんです。だから海に行きたい。あとは季節それぞれの風景。あじさいの咲く頃に鎌倉に行ってみたり、今なら冬の景色がいいですね。私は冬が一番好きなんです。寒いんだけどどこかあったまる雰囲気のあるような、そんなイメージの写真が撮れたらいいですね。
あとは光のあまりない薄暗いときに、それを生かしてどれだけ面白い写真が撮れるのか、雨上がりに葉っぱに水滴がついているのが撮りたいとか、他にも撮りたいものがたくさんあるんですよ。なかなか時間がないけどいつか撮りたいです。そうだ、このカメラを海外に持って行ったことがないですよ！海外で撮ったらどんな風に写るんだろう。たぶん興奮して撮りっぱなしだと思う(笑)。



花が咲いているとついカメラを向けてしまうそう。フレーミングを変えている色々な角度から撮影する

写真は一生続けてゆける趣味 将来はカメラを構えるカッコイイおばあちゃん！

撮りたいものが本当にたくさんあるんですね。時間があれば今すぐにも撮りに行ってしまいそう。

最近あまり撮っていないので、時間があれば撮りに行きたいですね。でもカメラは一生続けられる趣味だと思っているんです。これから先いくらでも撮る機会はあると思うから、無理してまで撮りたいと思わないし、早く上手になりたい！って焦ってもいいんです。仕事があるときは一生懸命仕事して、暇ができたなら撮りに行って楽しめればいいって思っているんですよ。前におばあちゃんが三脚持って、大きなカメラ構えてカシャカシャ撮っているのを見たんですよ。このおばあちゃんなんてカッコイイんだ！って思いました。ほんとにカメラは一生かけて続けられるものなんだあって。

黒川さんは写真のどこにそんなに惹かれたんだと思いますか？

写真を撮ると心が広がるような気がするんです。カメラを持って歩いていると、何かいいものがないかっていっぱい探すから、普段は通り過ぎてしまう小さなものも見つかるようになるんです。見えなかったものをしっかり見るようになるし、気づかないことに気づけるんです。小さな花でも草でも、写真に撮ると感動をもらえる。一生懸命生きているんだとか、よく分からないけどそんな気持ちになる。その感じがすごく好きですね。

あとはカメラで人と話ができるんです。カメラを構えてると「カメラ勉強してるの？」って話し掛けてくれる人もいますし、お花を撮ってたらそこに住んでるおばさんが出て来て「それきれいでしょ？そのお花の種あげようか？」って言ってくれたこともあるんですよ。

では最後に、黒川さんにとってカメラはどういう存在ですか？

なんだろう、うーん.....リラックスのもと！カメラを持ってぶらぶら歩いて撮っているときって、誰のためでもなく純粹に自分が楽しんでいるし、自分の世界にどっぷりって感じで、そういうときは心が軽くなるんです。癒しの音楽を聞いてリラックスしているのと同じような感覚ですね。

今回はたくさんお話をうかがって、本当に撮るのが好きなんだということがとても伝わってきました。

うふふ。最近もこんなふうに仕事でカメラの話させていただく機会があったんですが、私がカメラの話をしているときの写真を見るとめちゃくちゃ笑顔なんです。「なんだこの顔！」って思うくらい笑ってるの、ニコニコです(笑)。

これからもその笑顔で写真を撮り続けていってくださいね。

はい。私も、三脚持ってシャキッとカメラ構えてるカッコイイおばあちゃんになりたいと思います。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.